



# 安全データシート

2018年2月28日

## §1. 製品および会社情報

製品名 : ペンチング オイル (O 655、O 505、O 405、O 305、O 205、O 105)

会社名 : ホルベイン工業 (株)  
 住所 : 542-0064 大阪市 中央区上汐 2-2-5 (本社)  
 電話 : 06-6191-7722  
 担当部署・緊急連絡先 : 技術部  
 住所 : 579-8063 東大阪市 横小路町 4 丁目 10 番 52 号  
 電話 : 072-985-1221 作成者 : 荒木豊

## §2. 危険有害性の要約

危険分類 : 引火性液体  
 物理的及び化学的危険性 : 可燃性なので火源の存在下にて燃焼する。

GHS 引火性液体 : 区分 3  
 皮膚刺激性 : 区分 2  
 眼球影響 : 区分 2B  
 呼吸器 : 区分 1  
 特定臓器 (中枢神経系) : 区分 3  
 皮膚感作性 : 区分 1  
 水性環境有害性 : 区分 4



注意喚起語 : 警告、危険  
 危険有害性情報 : 可燃性液体。飲み込むと有害のおそれ

## §3. 組成及び成分情報

成分 単一製品・混合物の区別 : 混合物 (\*印=主成分)

組成 (化学名又は一般名)	化学式又は構造式	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
重合アマニ油 (重合乾性油) *,**	—	67746-08-1	—
合成樹脂 *	—	登録済	登録済
ナフサ (水素化処理重質石油) *,***	—	64742-48-9	9-1690
ナフテン酸コバルト (金属石鹼)	(RCOO) <sub>2</sub> ·Co	61789	8-630

\*\* : 原料のアマニ油は、リノール酸、リノレン酸その他の脂肪酸のトリグリセリド

\*\*\* : C<sub>9</sub>~C<sub>13</sub>のナフテン~イソパラフィン。これ自体が混合物なので組成表示できない

## §4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、保温して安静にする。  
 飲み込んだ場合 : 大量を飲んだ場合を除き、無理に吐き出させようとせず、医師の処置を受ける (→有害性の項参照)。  
 眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で洗い流し、医師の手当を受ける。  
 皮膚に付着した場合 : 皮膚についた部分を水および石鹼で洗い流す。  
 医師に対する特別注意事項 : 灯油事故に倣う。

---

## §5. 火災時の措置

- 消火方法 : 周囲の設備に散水して冷却する。可燃物を火災現場から隔離する。消火作業は風上から行う。
- 消火剤 : 粉末、炭酸ガス（初期火災）、泡消化剤（大規模）
- 消化時の注意 : 不完全燃焼ガスには一酸化炭素などの有害ガスが含まれる。
- 消火を行う者の保護（保護具等）: 前項により、消火作業の際には保護マスク着用が望ましい。
- 

## §6. 漏出時の措置

- 除去方法 : 流出した液はウエースなどで拭い取る。あるいは砂や土をかける。
- 二次災害の防止策 : 全ての火気と着火源を排除する。
- 人体に対する注意事項 : 換気を行う。
- 環境に対する注意事項 : 下水管への混入を避ける。
- 

## §7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : 眼や体内に入らないよう注意する（蒸気を吸い込まないようにする）。皮膚に長時間あるいは繰り返し触れないようにする。取り扱い後は手洗いを励行する。火気、静電気、火花などの着火源のない、常温の換気の良い場所で取り扱う。
- 保管 : 火気厳禁。特別な保管条件はないが、直射日光は避けること。
- 

## §8. 曝露防止及び保護措置

- 曝露防止 : 排気装置などの環境を設けるのが望ましい。
- 保護措置 : 必要に応じ、有機ガス用防災マスクまたは換気マスクを着用する。
- 管理濃度 : 曝露許容濃度（Threshold Limit Value）: 1200 mg/m<sup>3</sup> (197 ppm、全炭化水素類)
- 

## §9. 物理的および化学的性質

- 色・形状 : 淡黄色透明液体
- 臭気 : 油臭
- pH : -
- 引火点 : 44.3℃（タグ密閉式）
- 発火点 : 200℃以上
- 沸点範囲 : 156～200℃
- 燃焼範囲 : 0.6～7.0%（おおよその空気中の容量%）
- 蒸気圧 : 0.21 kPa（1.57 mm Hg、20℃）
- 比重 : 0.84
- 溶解性（溶媒に対する溶解性）: 水に不溶。石油溶剤と相容
- 

## §10. 安定性及び反応性

- 燃焼性 : 可燃性
- 安定性 : 通常の実験条件下で安定
- 反応性 : なし
- 避けるべき条件 : 加熱、スパーク、裸火、その他の発火源
- 避けるべき材料 : 強酸化剤
- 分解生成物 : 二酸化炭素、一酸化炭素、水、コバルト酸化物（微量）
- 

## §11. 有害性情報

- 経口毒性 : LD<sub>50</sub> = 20g/kg 以下（換算値）。嚥下自体での毒性はたいそう低いが、誤って飲み込んだり吐き出したりした際に呼吸器系に吸入された液体によって気管支炎や肺水腫を起こし得る。

吸入毒性 : 高濃度蒸気は、目や呼吸器官を刺激し、頭痛やめまいを誘発させ得る。麻酔性があり、中枢神経に影響を及ぼす可能性がある。

眼球への重篤な損傷性/眼刺激性 : (試験結果において) 短い時間、軽度な不快感を及ぼす。人により刺激を感じ、結膜の赤変、角膜の混濁を誘うことがあるが眼組織を損傷しない

経皮毒性 : 体質により刺激を感じ、アレルギー反応を示し、何度も繰り返して(あるいは長時間)接触すると、皮膚炎を起こす事がある。

がん原性 : IARC (国際癌研究機関) は、石油系溶剤を「Group 3 (人に対し、発癌性について分類できない物質)」に分類している。

短期・長期曝露による他の健康有害性 : ヒトでの経験や実験データから、亜慢性、慢性の呼吸器系又は皮膚感作性、変異原生、生殖毒性、発がん性、標的臓器毒性(単回曝露又は反復曝露)、吸引毒性その他の健康影響が推定されるが、明白な知見はない。

## §12. 環境影響情報

生態毒性 : 水生生物に対して有害性があるとは予測されない。

残留性・分解性 : 易生分解性であると予想される。

## §13. 廃棄上の注意

廃棄 : 危険物の規制に関する規則第 41 条以下の法規に従う。その他、地方および国の関連法規に従う。家庭で使用するレベルの量なら、ビニール袋に納めたウェース類にしみ込ませ、水を散布して密封し、可燃ゴミとして処理できる。

容器・包装の適正な処理方法 : 空のガラス容器の形で不燃ゴミとして処理する。

## §14. 輸送上の注意

輸送に関する国内規制 : 危険物第 4 類第 2 石油類に関する一般的な注意による。

輸送に関する国際規制 国連分類 : クラス 3

国連番号 : 1263

パッキング グループ/容器等級 : III

## §15. 適用法令

消防法 : 危険物第 4 類 第 2 石油類 (非水溶性)

登録番号 : 4041-143327

危険等級 : III

危険物の規制に関する規則 : 第 41 条以下の法規に従う

労働安全衛生法 : 危険物 (引火性のもの)

有機則 : 第 3 種有機溶剤

船舶安全法・海洋汚染防止法 : 引火性液体

高圧ガス取締法・毒劇物取締法 : -

本品は、ACMI (The Art & Creative Materials Institute, Inc., 美術材料協会) の製品分類基準において、CL (人体に何らかの作用を有し、適切な使用を望まれるもの) に分類されています。

## §16. その他

- \* 本シートは、製品を安全にご使用頂く為に必要な注意事項をまとめたもので、通常的な取り扱いを対象としています。使用方法は、これをご参照の上で使用者の責任に置いてお決め下さい
- \* 記載内容は情報提供であって、いかなる保証を与えるものではありません
- \* 記載情報は当社所有の情報によっていますが、その完全さを保証するものではありません
- \* 記載内容は法令の改定や新しい知見によって変わる事があります